

(山上臣憶良、鎮懐石を詠む歌一首 并せ)

て短歌)

八一三番

かけまくは あやに恐し 足日女 神の命 韓  
を 向け平らげて 御心を 鎮めたまふと い取  
らして 齋ひたまひし ま玉なす 二つの石を  
世の人に 示したまひて 万代に 言ひ継ぐがね  
と 海の底 沖つ深江の 海上の 子負の原に  
み手づから 置かしたまひて 神ながら 神さび  
います 奇しみ魂 今の現に 尊きろかむ

八一四番

天地の ともに久しく 言ひ継げと この奇しみ  
魂 敷かしけらしも